

# 会 議 録

## 1 会議名

令和2年度 第8回高土区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### (1) 協議事項（公開）

#### ① 自主的審議について

・今後の進め方について

#### ② 令和3年度地域活動支援事業の事前説明会について

## 3 開催日時

令和2年12月17日（木）午後6時30分から午後7時50分まで

## 4 開催場所

高土地区公民館 大会議室

## 5 傍聴人の数

2人

## 6 非公開の理由

なし

## 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：青木正紘（会長）、上野秀平、玄蕃郁子、杉田一夫、高橋清司（副会長）  
立入真太郎、田中利夫、塚田春枝、樋口里美、日向こずえ（副会長）  
松山公昭（欠席1人）

・事務局：中部まちづくりセンター 本間センター長、藤井係長、山崎主事

## 8 発言の内容（要旨）

### 【山崎主事】

・会議の開会を宣言  
・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

### 【青木会長】

・挨拶  
・地域協議会会長会議（11/25開催）の報告

**【山崎主事】**

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条 1 項の規定により、会長が議長を務めることを報告

**【青木会長】**

- ・会議録の確認者：塚田委員

次第 2 議題「(1) 協議事項」の「① 自主的審議について」の「今後の進め方について」に入る。事務局より説明を求める。

**【山崎主事】**

- ・資料 1 に基づき説明

**【青木会長】**

今の説明に質疑を求める。

(発言なし)

まず、資料 1 の今後の進め方に関する意見について、追加意見がある委員の発言を求める。

(発言なし)

意見がないようであるため、次に進める。

今後、高土区地域協議会で全ての内容を審議できるわけではない。出た意見の中から 1 つか 2 つに絞りたいと考えている。その後、資料 1 に基づき、それぞれのテーマについての審議の方向性や地域協議会での取組内容を検討していく。まずは、テーマの絞り込みについて意見を求める。

**【松山委員】**

自主的審議テーマとは、単年度のテーマのことを言うのか。それとも任期の 4 年間で考えるのか。

**【青木会長】**

事務局より補足願う。

**【山崎主事】**

自主的審議については、区によってやり方が異なる。例えば、任期の 4 年間をかけて大きなテーマについて取り組み、最終的に任期の中でかたちにしていくやり方がある。また、いくつかのテーマがある中で、1 つのテーマがかたちとなれば次のテーマに移るという進め方もできる。必ずしも一通りのやり方ではないと思っている。

**【松山委員】**

本日は、それをどうするのかも含めて決めるということか。高士区としては単年度ではなく、例えば残りの3年間で何をするのか、そしてそのテーマがかたちになったら次はどうするのかというやり方がよいと思う。

**【青木会長】**

他に意見等あるか。

(発言なし)

資料では5つのカテゴリーにまとめている。その中から、どれとどれを、どのように進めていくのかについて検討したいと思う。

最初に、どれを行うのかについて決めていきたいと思う。意見を求める。

**【松山委員】**

人材の育成というか、少子高齢化については国全体のことであり、当然行政でも対策を考えている。そのため少子高齢化については特段取り上げなくてもよいと思っている。何か特別な話があった際に取り上げてもよいと思う。

例えばテーマを2つ程度に絞ってはどうか。任期は残り3年間ある。その中で、「3年後にはこれがかたちにできる」といった目安を考えながら選んだほうが、具体的に分かりやすいと思う。自分は旧高士スポーツ広場についてと地域の活性化について、具体的に何かできないかと思っている。これは当然、他のテーマともリンクしてくるわけである。

**【青木会長】**

他に意見等あるか。

**【塚田委員】**

なかなか難しい。自分としては、やはり地域活性化策が1番大事なことはないかと思っている。これがうまくいけば地域が活性化するためよいと思う。だが、何に取り組めば活性化するのか、どういったことをすれば成功するのかといったことが自分の頭の中にはない。

カテゴリーの中では活性化策が非常に重要だとは思う。しかし難しいため、なかなか行うことができないようにも思う。それが今までも地域協議会で協議していても、解決できていない理由なのだと思う。

**【青木会長】**

前回の協議会の話の中で、活性化と言っても、なかなか広範囲であるためのを絞りにくいとの話の中で、高土区では活性化のために様々な事業を行ってきており、他の地域に決して負けないような事業であるとの話があったと思う。小学校と一緒に行う体育大会や、敬老会、夏祭り、高土ルミネがある。その他にも防災関係の訓練等、さまざまな事業を行っている。それらの事業を行っている上で、人材不足の問題が出てきている事業もある。さらに、限られた人材の中で毎年苦勞しながら少人数で活動していることが事実であり現状である。それであれば、イベントの計画の段階から、いろいろな人材や世代を含めて検討していったらどうかとの意見があった。若い人・中間の世代の人・高齢の人で話し合いながら進められれば、世代間交流もできるのではないかとも思う。

#### 【立入委員】

物事を決めるには、やはりまずはその地域の問題点や課題から見つけなければ、どうしたらよいかという最終的なゴールには結びつかないと思う。何でも手法から入ってしまうと、目的が定まっていなためきちんとしたゴールには辿り着けないと思う。

例えば高土地区の問題点や、高土地区がどうなってほしいのかという理想を、まずはきちんと協議した上で、それに向けてどのようにやるのかという話になるかと思う。やはりこの地域が活性化することが1番よいということは分かる。そのためにはどうするのかといったときに、自分を含め他の委員も結構年齢層が高めである。これからは10代・20代・30代の人材がどの地域にも大事だと思う。そういった世代の人との意見交流会を持って、いろいろな話を聞いて、その中でもう少し精査をしてどんなふうに向かっているのかという決め方も1つだと思う。

#### 【青木会長】

そういった世代間交流を行うためには、場を作らなければならないのだが、場がないということが言われている。例えば高土中学校跡地を変えていけば、そういう場ができるのではないかという話も出た。さらに他の地域に自慢できるような、いわゆる地域の事業をすでに行っているのだが、先ほども発言したように、毎年同じことを同じ人が苦勞しながら行っている現状を、改めるような仕組みを作ってはどうかとの意見も出た。

#### 【杉田委員】

資料ではそれぞれのカテゴリーにまとめてあるが、1番大きなことは、やはり「地

域活性化」だと思う。その中で具体的なこととして、旧高士スポーツ広場や地区の行事等が挙げられる。コツコツと細かい内容を寄せ集めていき、最終的に地域の活性化に繋がればよいと思っている。

#### 【田中委員】

自分たちで「何をやろうか」というよりも、やはり「どうしたらよいのか」という意見を聞いて揉んだほうがよいと思う。自分はこれから何かをする年齢でもないため、やはり若い人の意見を聞いて揉んだほうがよいと思っている。

#### 【青木会長】

自分は地域協議会委員 2 期目であるが、過去にも、地域協議会だけで話をしてもなかなかまとまらないため、もう少し広く意見を聞きたいという意見があり、町内会長や地域住民と懇談会を行ったことがある。その概要は前回配布したが、そういったことも踏まえて考えた今後の進め方の意見がこの資料にまとまっているのだと自分は考える。任期は残り 3 年と少しだが、決して時間があるわけではない。個人的な考えとしては、まずはテーマを 2 つ程度に絞らなければ、前に進まないと思う。間違えた場合には、途中でやめてやり直せばよいとも思う。そのように進めてはどうか。

#### 【日向副会長】

自分も地域協議会委員は 2 期目であるが、地域の人々の意見を聞くために集まってほしいと思っても、やはりテーマがなければ若い人たちはなかなか発言できない。大体、若い人がなかなか集まらないことが、前期 4 年間の現状であった。

カテゴリーが 5 つあるのだが、その中からテーマを 2 つ程度に絞り、それに対しての意見を持って出席してもらうことが 1 番早いと思っている。若い人だけであればよいのだが、その中に町内会長等、いろいろな年齢層が入ってしまうと、やはり若い人はせっかく参加してもらっても意見を言えずに終わってしまった。

5 つのカテゴリーの中に目標物を 2 つ、本当は 1 つに絞ってもよいと思う。任期はあと 3 年しかないため、1 つに絞り、それに対して「こういうテーマで、こういう意見が欲しい」ということを明示した上で、集まってもらえることが 1 番の理想である。最低でも 2 つに絞って、意見交換会を開催したいと思っている。

#### 【上野委員】

6 年程前だったと思うのだが、地域協議会で若い人との交流会を行った際に、自分も参加していた。その時にはテーマを決めて若い人の意見を聞いていた。そうして高

土ルミネが誕生したという経緯がある。そこで自分たちもバックアップしていくようなかたちづくりをしたところである。

従って、やはりテーマをきちんと決めて、若い人の意見が出せるような環境づくりをし、それを吸い上げていろいろな事業等を行っていけばよいと思う。それが地域の活性化に繋がっていくと考えている。やはり地域の活性化を考える時に、世代間交流を行える場づくりをしてほしいと思う。それによって、残り 3 年間でどれをやっていくのかということが絞り込まれてくると考えている。

#### 【樋口委員】

いろいろと出されている中から絞るというのも大変なことだとは思っているのだが、やはり上野委員が発言したように、テーマを絞って進めていったほうがよいと思った。

#### 【松山委員】

いろいろな団体があるとの話があったが、そういったことを 1 番把握しているのは公民館の人だと思う。まずは地域にどのような団体があり、どのような人がいるのかを確認してはどうか。

また自分たちがいろいろな会議等を行う際、例えば「高士地区の 20 年後・30 年後」というテーマを出したとすれば、必ず団体の代表者や組織の人たちに「そのテーマについての考えを事前に教えてください」とお願いしている。すると、それをもって当日議論ができる。できることであれば、もう一度考えを返し、その後集まって話をするとかなりよいものになると思う。

例えば活性化について考えると、いろいろな団体が絡んでくると思うが、まずはいくつかピックアップしてから始めていけばよいと思う。活性化を一つのまとまりとすると、例えば旧高士スポーツ広場をどうするのかといったことを具体的に進めていければ、うまくいくように思う。ただ地域の人に「来て話してください」と言っても駄目だと思う。事前にテーマや課題について聴き、それに対する回答を見て、「このような回答や意見があったがどうか」とのやり方をすれば内容は深まると思う。動いていけば何かが見えるかと思っている。

#### 【高橋副会長】

資料には、前回出た意見を集約し、いろいろな内容が網羅されている。皆でよく考えた内容であるため、先ほどからも意見が出ているように、方向性として 1 つか 2 つにテーマを絞り、その内容についてしっかり取り組むというかたちが、1 年・1 年行っ

ていく上で実りが出てくる方法ではないかと思う。「地域の活性化」という大きなカテゴリーの中に、「地区の行事」や「組織・人材」等があり、これはすべて地域の活性化に繋がる内容であると理解している。委員から出た意見の中から2つ程に絞り、しっかりと方向を付けて進んでいくことで、その中で地域の方と関わったり、意見を伺う必要が出てくるため、おのずと世代間の交流や意見の集約ができると思う。

#### 【玄蕃委員】

残りの任期が3年間という中で進めていくとすれば、やはり的を絞って進めたほうがよいと思った。どれかに絞ったとしても、そこに人材等の問題もいろいろと関わってくると思うため、そのように進めてはどうかと思う。

#### 【青木会長】

各委員よりさまざまな意見が出た。次の段階として、資料に記載されているカテゴリーの中からどれに的を絞って進めていくのかということになる。

#### 【松山委員】

前期と同じことを繰り返し協議していてもよくないと思う。例えば、「3年後には旧高士スポーツ広場で運動会を実施したい」となった場合、実施するためには、人に集まってもらうためには、どうしたらよいのかということだと思う。それまでにクリアすることはたくさんあると思う。そのため、まずはいろいろな人たちの意見を聞く場を作ってはどうか。駄目であれば、その人たちが集まっている場所にこちらから出向けばよいと思う。そういった積極的なことも必要だと思う。委員はあまり話さず聞くことに徹する等のルールを決めて、参加者から話してもらえるようなシステムを作ったほうがよい。自分たちはどうしても上から目線になってしまうと思うため、そうならないためのテクニック等が必要だと思う。自分は、「旧高士スポーツ広場を活用できるのか」ということが、残り3年間で取り組める内容だと思う。

#### 【青木会長】

「旧高士スポーツ広場」「地区の行事」「人材・組織」「地域活性化策」「その他」の5つの項目で採決を取る。

最初に「旧高士スポーツ広場」に的を絞ることに賛成の委員は挙手願う。

#### 【松山委員】

2つに絞るのか。優先順位は付けるのか。

#### 【青木会長】

正副会長の事前協議の中では、2つ程に絞ってはどうかとの話となっている。

とりあえずは、5つの項目で採決を取る。

最初に、「旧高士スポーツ広場」に的を絞ることに賛成の委員は挙手願う。

(6人挙手)

次に「地区の行事」に的を絞ることに賛成の委員は挙手願う。

(挙手なし)

次に「人材・組織」に的を絞ることに賛成の委員は挙手願う。

(2人挙手)

次に「地域活性化策」に的を絞ることに賛成の委員は挙手願う。

(2人挙手)

これでちょうど10人のため、「その他」の委員はいない。

採決の結果、「旧高士スポーツ広場」に的を絞ることに決定した。その中で人材育成等も取り組んでいくことが十分にできると思う。

次に、決定した項目について、資料の右側にある「どんな取組があったらよいか」「どうやって深掘りしていくか」について意見を求める。

#### 【上野委員】

前回の協議会の資料1に記載されているように、まずは旧高士スポーツ広場を利用している団体、管理している振興協議会や体育協会、その他地域住民と意見交換ができれば、方向性が見えてくるように思う。今後どのようにしたいのか、利用するにはどうしたらよいかということについて意見交換をしたほうがよいと思う。特に現在、幼年野球チームが広場を利用しているため、そのチームからも参加してもらいたいと思う。残っている建物をどのようにしたいのかについてそれぞれに意見を聞けば、最終的に資料1にあるように「早く建物を取り壊してほしい」という方向性が出てくると思う。

#### 【青木会長】

まずは関係者が集まって協議をし、方向性を出すこともよいと思う。

#### 【松山委員】

その前にまずは地域住民に、今どういう状況であるのかを周知しなければならないと思う。どういう経過で、今はどうなのかということである。これはいろいろな団体との意見交換と並行して行えばよい。高士中学校が廃校となって約30年が経つわけで



ある。それ以降の人たちは知らない人もかなりいると思う。若者からすれば「そういう所もあったのか」という程度になる可能性もある。まずは状況等を知らせてはどうか。団体から集まってもらいにしても、出席する方はおそらく高士中学校を卒業した人である。それより若い人たちの中には高士中学校を知らない人もいると思うため、まずはその辺りの周知も同時に進めていくべきだと思う。

#### 【立入委員】

個人的な意見として旧高士スポーツ広場を使うということは、委員からの意見にもあったように、「高士の中心・拠点にしたい」ということが1番なのかなと思う。そのためには、スポーツで利用する人以外の人たちも使ってもらえる場になることが大事だと思う。それが「中心・拠点」なのかなと思う。そして高士地区以外の人からも来てもらって有効的に活用することが、1番の理想かなと思う。そのため、多少場違いかもしれないが、大きな話で言うと、例えば県立武道館や大湊区のジムアリーナ等、そのくらい大きな目標を立ててやるというほうが、夢があって面白そうな気がする。

#### 【青木会長】

松山委員の発言にあったように、まずは高士区地域協議会の自主的審議テーマとして「旧高士スポーツ広場」を選んだということ、地区全体を網羅している振興協議会に伝え、今後はそこでの意見を取りまとめ、だんだん関係者を絞っていき、具体的な策を練るということになると思う。

#### 【玄蕃委員】

「旧高士スポーツ広場の活用」ということに決まったとしても、地域協議会としてどういう方向性がよいのかという考えを持たずに、地域の方に意見だけを聞いても、全体としてまとまらなくなる可能性があると思う。地域協議会の意見に沿ってもら必要はないと思うし、「こんな方法もある」「こんなこともある」「こんなことはどうだろうか」とはあえて言わなくてもよい。先ほど高いところから話すようなことはよくないとの意見もあったが、自分たちが何も考えを持たずにそこに出ていっても、相手との話し合いが本当にうまくいくのか心配になった。

#### 【青木会長】

もっともな心配だと思う。その点については、これまでも活用についてのいろいろな意見が出てきている。その意見を束ねていけば、説得力のあるものにまとまるのではないかと見ている。

来年度に入ってからになると思うのだが、町内会長協議会や振興協議会との打ち合わせの中で、「地域協議会としてこのように考えているのだが、他に何かよい考えはあるか」と意見を出してもらう方法もあると思う。事前に考えを出してもらって集まったほうが、スムーズに流れる可能性も高いと思う。

**【松山委員】**

自分は当初、残っている建物が危ないという考えばかりが頭にあった。「旧高士スポーツ広場の活用」というと、それらの建物の問題も入ってくると思った。自分はあのグラウンドで、結果的に地域住民が集まって運動会ができればよいと思っている。そのために、いろいろな人の意見を吸い上げていく必要がある。あの場所で何かをするにはトイレもなければならぬ。建物も危ないため、早く撤去してほしいという方向にうまく持っていかなければならないと思う。また、土地等は行政のものであるため、勝手なことはできないとも思う。今はあの場所の歴史を知らない人のほうが圧倒的に多くなっている。このようなことを行ってきたということを順序立てて説明する必要があると思う。

**【青木会長】**

どのように進めていくか、審議していくかについては、本日出た意見を基に正副会長と事務局で協議し、次回以降相談したいと思う。

以上で次第2 議題「(1) 協議事項」の「① 自主的審議について」を終了する。

次に次第2 議題「(1) 協議事項」の「② 令和3 年度地域活動支援事業の事前説明会について」に入る。事務局より説明を求める。

**【山崎主事】**

- ・資料2に基づき説明

**【青木会長】**

今の説明に質疑を求める。

**【松山委員】**

事前説明会は地域協議会とは別なのか、それとも地域協議会を兼ねて開催するのか。今ほどの説明にあったように、正副会長のみ参加であれば、地域協議会とは別の会かと思うのだが。

また、去年の事前説明会の参加者は、具体的にどのような人や団体がいたのか。どういう人に案内をして、どういう人が来たのか。

**【青木会長】**

事務局より補足願う。

**【本間センター長】**

まず1点目の「地域協議会と同じなのか」という質問については、地域協議会とは全く別の会として開催している。

次に「どのような人が参加したのか」という質問については、過去に地域活動支援事業に応募した団体、あとは各町内会長も自分たちの町内会の提案をしたいということで参加したこともあった。

**【青木会長】**

他に質問等あるか。

(発言なし)

— 日程調整 —

・令和3年3月8日(月)午後6時30分から 高士地区公民館 大会議室

出席者については、昨年までは正副会長と参加できる委員が出席していた。半数程度の委員が出席していたと思う。

資料の「(3) 地域協議会の活動報告」についてはどうするか。町内会長も参加すると思うため、事前説明会で話してもよいとは思っているのだが、そこは自主的審議の進み方次第で、追って決めたいと思う。

**【松山委員】**

来年度の支援事業の説明会の場で、自主的審議のことを話してもよいのか。

**【青木会長】**

もちろん地域活動支援事業がメインだが、自主的審議の話をしないほうがよいということではないと思う。

**【高橋副会長】**

次回の地域協議会で、内容がどこまで絞り込めるのかということだと思う。その内容によって、事前説明会で説明できるのかが判断できると思う。

**【青木会長】**

では次回の地域協議会の結果によって決めることとする。

次回の開催日を決めたいと思う。

— 日程調整 —

- ・次回の協議会：令和3年1月25日（月）午後6時30分から  
高士地区公民館 大会議室

**【高橋副会長】**

- ・閉会の挨拶

**【青木会長】**

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。